

令和7年度 第2回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和7年10月9日（木）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎601会議室

出席委員：7名

瀬口哲夫委員長・杉野丞委員・三浦正幸委員・中井均委員・丸山宏委員・
奥田敏春委員・荒井信貴委員

説明のために出席した事務局職員：8名

教育委員会：浅岡克徳部長

社会教育課：柴田英代課長・浦上大助副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事・二村
優里奈事務員

都市基盤部：本多德行専門監

傍聴者：なし

次第

議題

- (1) 岡崎城跡龍城堀の整備について
- (2) 岡崎城跡坂谷曲輪の整備について

議事内容

- (1) 岡崎城跡龍城堀の整備について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：垂直に立たせる看板は写真を撮るときに邪魔になる。看板の角度も30度か45度にするのかでも印象が変わるので、1/1の模型を作って検討すべき。盤面の案も実際に模型に貼って確認した方がよい。展望デッキがバリアフリー構造なら、車いすを実際に持ってきて、看板が見えるのか試すべき。施工図面には張芝工とあるが、筋芝工のほうがよい。

委員：事務局がパターン4を第1案とした理由を教えてください。

事務局：展望スペースから見渡した時に、看板を見ながら正面の石垣が見えるようにするため。

委員：看板があったら石垣が見えづらいと思う。また、看板は2枚作る必要があるのか。1枚で問題ないと思う。

- 事務局: 設計図では、柵と看板は同じ1.1メートルという高さである。大人が立って見るなら視界の妨げにはならないと思う。
- 委員: 近い位置に看板が2枚あるのは不親切である。2枚あると別々で見なければならなくなるし、どちらかを見落とすかもしれない。また、柵は透けて向こうの景色が見えるが、看板は見えない。横矢掛りの写真を引きで撮ったときに看板が入る。それゆえに看板は1枚で、写真を撮るときに邪魔にならない位置がよい。
- 委員: 位置図を見ると、展望スペースから見えるのは石垣と便所と巽閣。展望させることで現代の建物が目立ってくる。看板をはじめ、個別で整備するのではなく、整備そのものの全体像を検討する時期に来ているのではないかと思う。
- 委員: 文面の文書の精査をしてほしい。中身について何を記載するのか全体的な方針は決まっているのか。具体的には現状を説明するためのものなのか、石垣の歴史について説明するためのものなのか、ということ。「2024年度発掘調査」の案でいえば、発掘調査の内容もあり、石垣や曲輪の内容もある。文中「この時に本丸堀北面の石垣も調査したところ」の「この時」はいつのことか。本丸堀北面のことも言及するならさらに補足しないと読み手には分かりにくい。また、語句について、本文には「扇形」とあるが、写真のタイトルは「扇文」となっているので統一してほしい。「本丸堀石垣」の案では、風呂谷曲輪と隠居曲輪の石垣のことを述べており、前半は曲線と折れのある石垣の違いや、石垣の変遷を説明しているが、後半では刻印の話になっている。上の文章と下の文章の整合性を図ってほしい。ちなみに城を作ったときに曲輪の名称として「隠居」という言葉は使うのか。「本丸堀（龍城堀）」の案では、石垣の形状の違いは現地で見ることができるが、なぜ形状が違うのかそのヒントを書いていた方がよい。また、最後の段落で自然環境の記述があるが、他の看板には自然環境についての説明が入っているのか比べた方がよい。
- 委員: この看板は岡崎城の内堀の南側に建てる唯一の看板か。本来看板を作るときは城内全部の看板を決め、どの看板で何の説明をするか、内容に漏れがないか等総合的に考える。今回は、崩落した石垣だけの説明なのか、南側の総合看板なのか。
- 事務局: 現状、龍城堀に看板は設置されていない。それゆえ龍城堀自体の説明と、展望デッキに伴う石垣の見え方、発掘調査のことなどその時点での情報を載せる予定である。
- 委員: 岡崎城の特徴は北側と南側で造りが違う事である。例えば、石垣なら南側はほぼ総石垣である一方、北側は鉢巻石垣や腰巻石垣ある。また、曲輪なら南側は横矢掛りがあるような軍学的な作りで、北側は中世の段階の丸

い曲輪である。石垣でさらにいえば、2段の石垣が見えるが、上の段は田中吉政の段階なので古い。下の石垣は江戸時代になってからの譜代大名の石垣なので新しい。このような情報のほうが大事。2024年に崩れたことも、大々的に崩れたなら書くべきが、そこまで大規模に崩れたわけではない。

委員：刻印や栗石の説明したい思いは分かるが、それを知りたい人がどれくらいいるかということ。おそらく100人来たうち1人くらいだと思う。まずは概略的な説明が必要。市民目線、来場者目線で内容を書いてほしい。詳しく知りたい場合はQRコードをつければよい。多言語化も、文章ではなくQRコードでよいと思う。

委員：刻印についても、調査が十分とは言えないと思う。平行して調査を進めてほしい。

委員：岡崎城内の看板の悉皆調査をして、規格を統一すべき。

事務局：岡崎城跡内の看板は、平成29年にまちづくり推進課が計画を作っており、それを基に設置している。

委員：今回の看板は、まちづくり推進課の計画に載っているのか。

事務局：計画には載っていない。

委員：その計画は、東岡崎側と矢作橋側から岡崎城に観光客が来た時に、どのようなアプローチで来るか、またその動線の途中でどのような案内板を作るべきかという発想だと思う。ここで考える看板とは目的が違う。

事務局：内容的にまだ足りない部分もあるので、計画や現状の設置状況と合わせて新規の看板は検討したい。

委員：いつ設置するのか。

事務局：看板設置は今年度事業で行う予定である。

委員：案は3つあるが、1つに絞るのか。

事務局：2枚設置予定で、案は3つ出した。

委員：2枚は多いので1枚でよい。今回は今日出た意見や、まちづくりの計画上で規格が決まっていると思うので、それを参考に進めていただきたい。ただ、内容については修正が必要ではないかと思う。

(2) 岡崎城跡坂谷曲輪の整備について

事務局：配布資料2に基づき説明

【質疑応答】

委員：河川区域との兼ね合いについて、保護層を設けてレプリカを置くことに問題はないか。

事務局：県との事前協議をしており、前向きな回答をもらっている。

委員：レプリカとはどのようなものか。検出された礎石をそのまま型取りしウレタン等で作成するのか、石材なのか。

事務局：どのような手法でどのような材質かはこれから検討する。まずは、整備の方針を整備委員会で諮って承認を得られれば今後検討していきたい。

委員：レプリカを置く場所には人が立ち入ると思う。危険性なども考慮すべき。

委員：できれば石がいい。より本物に近い方がよい。

委員：河川側の石垣との高さの差、盛土との差はどうか。

事務局：まだ決まってない。石垣より高くはならない。

委員：発掘調査の計画の色の意味は。

事務局：発掘調査の優先度の違いである。